

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300016		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループ ホーム もも太郎さん (谷田川)		
所在地	福島県郡山市田村町谷田川字表前58-1 (電話) 024-955-5628		
自己評価作成日	平成22年5月20日	評価結果市町村受理日	平成22年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近くに小学校、公民館があり、子供達や近所の舞踏愛好会の方々がボランティアで来て下さったりと地域との交流がある。また、グループホームと小規模多機能型事業所が併設している為各々の利用者が施設内を行き来して交流を深めている。利用者同士で助け合っている姿が多く見受けられ、明るく和やかな雰囲気である。職員は自分の価値観を押し付ける事無く、利用者に合わせて穏やかに対応している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成22年7月2日		

1. 管理者は管理者としての経験は短いですが、社会福祉の経験と介護支援専門員の経験を活かし、職員と共に事業所の運営改善等に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に理念の唱和を行っているが職員の入れ替わりもあり、理念を共有した実践までには至っていない。	理念を作成し事業所内に掲示している。申し送り時に唱和し、理念に添ったケアが出来るよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事に地域の小学校の児童に参加して頂いたり、運動会に参加させて頂いたりしている。	近隣の小学校の運動会や地域のリサイクル活動に参加している。また、地域の自治会に加入し交流を深めるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今はまだないが、今後地域の方に参加して頂き勉強会等を行っていききたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議でもっと積極的に広報活動をしたほうが良いという意見を頂き、毎月ご家族様宛に送付している「もも太郎さん新聞」を地区の方に回覧して頂く予定です。	運営推進会議は家族代表、区長、民生委員、地区相談員、地域包括支援センター職員で構成されている。会議で出された意見や助言等は運営に活かすよう努めているが、会議の開催回数が少ない。	運営推進会議で出された要望や意見、助言等を運営に反映するため、会議の定期的(概ね2月に1回)開催が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	分からない事を教えて頂いたり、相談させて頂いている。施設の実績を伝えるようにしている。	運営上の疑問点や意見等を市担当者に確認する等して連携を図るようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上の問題で、防犯の為に玄関の施錠をしている。利用者様が受けるリスクについて職員間で話し合い改善していきたい。	運営規程に「自由を最大限尊重し、尊厳をもって生活出来るよう配慮し」、「身体拘束や行動制限は行わない」との趣旨が明記され、身体拘束の及ぼす弊害等の研修が実施されているが、居室を除き安全面から施錠されている。	施錠することの弊害を、職員全員で再認識し、どうしたら施錠せずに安全に過ごすことが出来るか、取り組んで欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について職員間で話し合い、虐待を見逃さないよう情報収集したり、入浴の際に身体を観察を行っている。地域包括支援センターや行政とも連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加する等して制度についての理解に努めているが、新人職員等まだ理解出来ていない職員もいる。今後、施設内研修等で取り上げ全職員が理解出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、質問や疑問点はないか確認している。後から疑問が生じた点はいつでも連絡を下さいと伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に意見箱を設置、行政の相談窓口の書かれたポスターを目につく場所に貼ってある。また、ご家族が面会に来られた際はご利用者本人の状態や日常生活の様子を伝え、ご家族から要望を聞くよう努めている。	利用者の意見や要望は、日常生活の中で把握し、面会時に家族の意見や要望を聞いている。また、各部屋に連絡ノートを準備し家族の意向等の把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議の際に、職員から意見・提案・要望を聞くようにしている。	各種会議や日頃の関わりの中で職員の意見、要望、提案を聞き運営に反映させている。また、法人の運営会議で職員の意見や要望が検討される仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握に努めている。その上で、労働時間ややりがい等については職員の希望を出来るだけ取り入れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に教育委員会があり職員教育に努めている。施設内にも教育委員がおり、その者を中心に施設内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での情報交換は行っている。管理者は他事業所との交流があるが、職員は殆どない。今後は他事業所との相互訪問等の活動も行っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の前に事前調査を行い、本人の状態・状況を確認した上で本人・家族から不安や要望を聞き、具体的にどのような対応が出来るか説明を行い安心して頂いている。また、事前に施設を見学して頂き納得した上で契約して頂くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に調査を行い、本人の状態・状況を確認した上で本人・家族の話をよく聞き、本人・家族の要望と実際に必要な支援を見極めている。利用出来る他のサービスについても説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや料理等を一緒に行っている。個々の利用者に得意な事は教えて頂くという姿勢で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で利用者の施設での様子を伝えている。相互に情報交換を行い、共に支援していく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々知人等が面会にくるが、もっと気軽に尋ねてくれる雰囲気作りをして行きたい。	利用者の地域での関わりを把握し、知人との外出や面会、行き付けの美容院等、これまでの関係が継続出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置を考慮したり、利用者同士のコミュニケーションが困難な時は職員が間に入り、良好な関係が保てるよう努めている。カラオケや体操等皆で出来る事をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や様子から一人一人の思い・意向の把握に努めている。また、本人の思いが叶えられるよう支援している。	日常生活の関わりの中で、利用者の意向や希望を把握している。意思疎通の難しい利用者には、日常生活での気づきや表情、仕草等で把握し、利用者の視点に立った支援が出来るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の話や家族からの情報提供により、生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子や記録等から心身状態の変化や有する力の把握に努めている。また、申し送り等で職員間での情報を共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を取り入れて計画を作成しているが、本人・家族・必要関係者全員が集まっての話し合いは行えていない。	日頃の関わりの中から、担当職員が中心となり利用者や家族の希望・意向を把握し、スタッフ会議の中で評価や今後の課題について話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態の変化を把握し、申し送り・介護記録等での職員間の情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に合わせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したい、地域の方にボランティアに来て頂いたりしているが、一人一人の地域資源の把握までには至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	事前調査の時や申し込みをされた時にかかりつけ医や希望の病院があるかを確認している。また、受診の際は情報提供を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医が訪問診療を実施し、医療機関との連携が図られている。また、利用者等の希望で、かかりつけ医を受診する時は、原則家族が付き添うこととし、都合が付かない時は職員が対応している。受診結果は家族に都度報告され共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	日常の申し送りの中で情報の提供をしている。利用者の状態に変化が見られる時は看護師に伝え相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には職員が同行し情報の提供を行い、病院関係者との情報交換・相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針がまだ確定しておらず、本人・家族との話し合いも出ていない。早急に取り組みたい。	重度化や終末期に於ける対応指針(看取りに関する指針)は示されているが、説明がされていない。	今後事業所としてどう対応するのか、早急に検討することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルは作成してあるが、定期的な訓練は実施していない。4月に消防署の方に来て頂き、急変時の応急手当の講習を実施した。毎月の職員会議等で定期的に訓練していくようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練は実施している。近隣の協力体制・備蓄に関しては早急に整備したい。	消防署立ち会いにより、夜間を想定した訓練を、年2回実施している。また、階段には非常時スロープになるよう工夫されている。スプリンクラーの設置は予定されているが、非常食等の備蓄はされていない。	火災、地震、水害等に対応し、昼夜とも利用者が安全に避難できるよう、訓練回数を多くするとともに、地域の協力が得られるよう体制を整備して欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切な言葉かけを心がけている。不適切な言葉かけがあった場合は職員間で注意し合うようにしている。	呼称の「さん」付けや、命令口調での話しかけ等について、日頃から職員間で注意し合っている。また、利用者一人ひとりの人格を大切に、居室での話し合いや人目のないところでの声かけ等、プライバシーに配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が引き出せるような関わり方を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや希望を尊重し、本人のペースに合わせて支援している。希望に添えない時はきちんと説明を行い納得して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を心がけ本人の好みに合わせたおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	野菜を切ったりしている。お手伝いをして頂いた時は感謝の言葉かけを行い、食事は職員も利用者と一緒に味わっている。	食事は利用者と職員と一緒に会話をしながら摂り、楽しい食事となるよう支援している。利用者はジャガイモの皮むき等、出来ることを職員と一緒にやっている。また、事業所内の畑で作った野菜を職員と一緒に収穫し献立に反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った食事の形態にして提供し、量も一人一人に合わせて必要な栄養が摂取出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨き、うがいの声かけ・介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンに合わせて定時のトイレ誘導やズボンの上げ下げ等の介助を行っている。	排尿・排便チェック表やバイタル確認時、一人ひとりの排泄状況を把握し、その人に応じた声かけや誘導を行い支援をしている。支援により数名が自立に向けて改善されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のパターンや排便の有無の確認に努め、水分摂取の促しをしたり、運動への働きかけ、食事の工夫、主治医に情報提供し便秘薬の処方をして頂く等している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望やタイミングに合わせて入浴の支援を行っている。	利用者の希望を聞き、身体状況に合わせた入浴支援を行っており、毎日入浴している人もいる。また、申し出により同性介助が出来るような配慮もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	和室・ソファ等で横になり休息をして頂いている。その時の状況に応じて枕の高さを調節したり、部屋の明るさを調整し安眠の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の服薬内容について処方内容を確認し、間違いなく服薬出来るよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い・茶碗拭き・お茶入れ・洗濯物たたみ等各々が出来る事をして頂き、労を労う言葉かけを行っている。利用者同士で助け合って行動する事もあり、他人の世話を生き甲斐にしている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事の際に外出しているが、日常的に外出する事は出来ていない。一緒に買い物に出かける等外出の機会を増やしていきたい。	買い物、行楽地へのドライブ等、利用者の身体状況に合わせた外出支援を行っている。なお、利用者の希望により、理髪店への外出等については、家族の協力を得ながら、支援に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には自分で所持して頂いている。買い物には職員が同行し見守りを行い、買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話の取り次ぎはするが、自分から電話をかけたり、手紙のやり取りを希望する方がいない。希望があれば支援を行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花を飾ったり、ホールの明るさを調整したりして居心地良く過ごせるように努めている。	共用生活空間は明るく、併設されている事業所と行き来ができ、交流が図られるようになっている。また、共用スペースには畳部屋やソファが置かれ、思い思いの場所が選べ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに気の合う利用者が一緒に座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	各々の馴染みの物を持参されている。	寝具や仏具、写真等、それぞれの思い出の品々が持ち込まれ、プライバシーが守られ、利用者の居心地の良い生活の場となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分からない方の為に(便所)と書いた張り紙をして自分でいけるようにした。		